

# 発刊によせて

獅山有邦

科学技術庁研究開発局海洋開発課

熱帯、亜熱帯の海洋科学に関する機関誌「みどりいし」が、このたび財団法人熱帯海洋生態研究振興財団におきまして創刊されることになりましたことを心よりお喜び申し上げます。また、貴財団の皆様方には、平素より我が国の熱帯海洋科学技術の振興、とりわけ熱帯、亜熱帯海域の生態系に関する諸問題についての基礎的な調査研究の推進のためにお力ぞえをいただきありがとうございます。もとより、海洋は地球表面の約 7 割を占めており、豊かな自然を育み、膨大な量の鉱物資源、石油、生物資源を包蔵しているばかりでなく、広大な海洋空間を有し、また潮流、波等の尽きることのない自然エネルギーの存する場として無限の可能性を秘めております。また、近年地球的規模の環境問題が全人類的に対応が必要な緊急の問題となっており、サンゴ礁による二酸化炭素固定機能をはじめ海洋生物の役割が注目されています。本年 5 月には内閣総理大臣の諮問機関である海洋開発審議会が「長期的展望に立つ海洋開発の基本的構想及び推進方策について」（答申）をとりまとめたところであり、地球環境問題への対応及び環境の保全の観点から、サンゴ礁等に関して自然環境保全のための技術開発、調査研究とサンゴ礁の育成が必要であるとされております。科学技術庁といたしましても、海洋科学技術センターの地域共同研究開発事業を活用し、沖縄県の知念においてサンゴ礁造園技術の研究開発を行ってまいりました。貴財団は、昭和 63 年に設立されて以来、阿嘉島臨海研究所における活動を中心として、熱帯、亜熱帯海域の生態系の研究及び生物資源の有効利用に関し、オーストラリア国立海洋研究所などの海外研究機関との交流、ヤコウガイの増養殖に関する調査研究やサンゴ礁の環境保全に関する基礎的研究開発など、幅広い活動を実施してこられました。今後、貴財団におかれましては、これらの実績をもとにさらに熱帯海洋における科学技術の向上を図られますとともに、地球環境問題の解決がせまられている状況にあって、熱帯、亜熱帯海域の生物の寄与等の研究開発ニーズのますますの高度化と増加に対応し、重要な役割を果たされることを期待しております。このような時期に機関誌「みどりいし」が創刊されることは、まことに時宜を得たものであり、これを機に関係者相互の情報交流が一層円滑化され、熱帯海洋科学技術の発展に貢献されることを望んでやみません。